第76回特別展

北京・故宮博物院

黄金の至宝展

　中国の首都北京、その中心部に位置する故宮は、明・清二代王朝の皇宮で、紫禁城と呼ばれていました。そこには、宮殿や役所、内裏として使われた、大小さまざまな建築群が立ち並び、商・周代の古銅器から書画、工芸、彫刻、書籍など、歴代皇帝が集めた膨大な数の美術工芸品が収蔵されています。

　今日、それらの建築群をも含めて、故宮博物院と呼ばれ、世界有数の博物館として、世界中から多くの人々が訪れているところです。 このたびの「黄金の至宝展」は、故宮博物院が収蔵する文物の中から、金や銀、玉をあしらった調度類や服飾品をはじめ、今まであまり紹介される機会のなかった仏教美術品、歴代王朝下で制作された、精緻を極めた工芸美術品を展覧し、中国王朝の絢爛豪華な宮廷生活を紹介するものです。

※この図録は現在当館では扱っておりません。

会期／平成13年6月2日（土）～7月8日（日）

会場／特別展示室1、特別展示室２、南蛮美術館室

主催／神戸市立博物館、神戸市、神戸新聞社

協力／日本航空

開催日数／32日

入館者数／53，177人

出品件数／120点